

ミャンマー医療事情説明

岡山 保健省副大臣らセミナー

ミャンマーの医療事情を説明する
パイン・ソウ副大臣



ミャンマーのパイン・ソウ保健省副大臣ら二岡山、岡山市鹿田町の

岡山大医学部で同国の医療事情についてのセミナーを行った。同大と同国の医療機関は一九九六年からC型肝炎予防などの共同研究に取り組んでおり、今後の連携方針などを話し合うために訪れた。

セミナーは医学部基礎研究棟であり、同大医師や関係者ら約三十人が参加。パイン・ソウ副大臣が「子宮がん検診などの共同研究は順調に進んでおり、今後も結核や血液疾患などの分野で協力していきたい」とあいさつ。同省職員から、医師は省管轄の四医科大で六年間かけて育て、このうち一年間をインターンに充てていることなど、同国の教育体制

について説明があった。

これに先立ち、国際医療ボランティアA MDA本部（岡山市櫛津）を訪れ、五月に直撃したサイクロンの被害支援に感謝を示した。

一行は十七日に来日。二十一日以降は高谷茂男岡山市長らへの表敬訪問や医療機関視察などを行い、二十四日に岡山を離れる。

（内田圭助）